



a film by
STANLEY KUBRICK

ライアン・オニール
マリサ・ベレンソン

パトリック・マギー／ハーディー・クリューガー

ダイアナ・コーナー／ゲイ・ハミルトン

製作・監督・脚色 スタンリー・キューブリック

原作ウィリアム・メークピース・サッカレー

編曲・指揮レナード・ローゼンマン

製作総指揮ヤン・ハーラン

ワーナー・ブラザーズ映画

from Warner Bros. A Warner Communications Company

オリジナル・サウンドトラック・ワーナー・ブラザーズ・レコード & テープ

《風雲児》バリーの華麗なる愛と冒険の大ロマン！

スタンリー・キューブリック作品

バリー リンボーン



1976年度アカデミー賞・撮影賞 / 衣装デザイン賞 / 編曲賞 / 美術監督賞受賞



バリ バトン

激動する18世紀ヨーロッパを舞台に富と名譽を求めて生きた《風雲児》
バリー・リンドンの華麗なる愛と冒険の大ロマン。——一作ごとに、い
ろいろな点で映画関係者の注目を集める話題作を放ってきた、映像芸術
の巨匠スタンリー・キューブリック監督の10本目の作品。彼のライフ・
ワークに一区切をつける作品として、彼がこの映画に注いだ情熱は並々
ならぬものがある。円熟した技術が描き出す映像は、1シーン・1シー
ンが豪華にして華麗な芸術品。印象派の巨匠たちの代表的名画もかくや
と思われるほどの素晴らしさである。衣裳はもちゃん建物・風景まですべ
て当時のものと寸分変らぬものというところで、ロケ地探しに費やした
時間が半年、衣裳を作るのに費やされた時間が1年半、戦争の仕方など
の時代考証には有名な軍事歴史家ジョン・モローが招かれ、詳細な点ま
で忠実に再現している。

特に苦労したのが撮影で、あくまでリアリズムに徹す
るキューブリックは、当時の照明の中心であつたロウソ
クの灯でも写せるカメラを、独自に創つてしまつた。こ
のカメラは50ミリf07のレンズを取りつけたもので、ほ
んのわずかな光でも写せるという画期的なもので、これに
よつて今までにない幻想的なまでに美しいシーンの撮影
が可能になつている。

また音楽については従来どおり、既成のクラシック音
楽を斬新にとり入れているばかりでなく、アイルランド
の古民謡、フレデリック・ショアの作曲の音楽など珍らしい曲
もとり入れられている。これらの音楽の編曲・指揮を担
当したのが「エデンの東」ミフコ口の決死隊のレナード・
ローゼンマン。撮影はキューブリック作品には欠かせぬ
名手ジョン・オルコット。衣裳は「移民者」(日本未公開)
のウルラ・プリット・ショタールンドと「時計じかけの
オレンジ」のミレナ・キャノネロの2人の女性が担当し
ている。

主演は「ある愛の詩」おかしなおかしな大追跡のライアン・オニールと、ベニスに死す「キャバレー」のマリサ・ベレンソン。若手人気No.1としてメキメキ売り出し中だつたオニールは、この作品への出演のために「ペーパーマン」以後、一切の仕事を取り止めて、見事にキューブリックの期待に応える演技を見せている。この一作で、演技者として一回りも二回りも大きく成長を遂げたことは言うまでもない。マリサ・ベレンソンに關しても同様だが、この一作で日本でもスターになることはまちがいのない美しさと演技の確さが光っている。

この2人を囲んで「シベールの日曜日」「飛べ!フエニックス」のハーディー・クリューガー、「時計じかけのオレンジ」のバトリック・マギー、などの名優が確実な演技で脇を固めている。

❖キャスト❖

バリー・リンドン……ライアン・オニール
レディ・リンドン……マリサ・ベレンソン
シュバリエ……バトリック・マギー
ポッドルフ隊長……ハーディー・クリューガー
ノーラ……ゲイ・ハミルトン
バリーの母……マリ・ケーン



a film by STANLEY KUBRICK

❖スタッフ❖

製作・監督・脚色……スタンリー・キューブリック
原作……ウィリアム・メックベイス・サッカレー
製作総指揮……ヤン・ハーラン
衣裳デザイン……ミレナ・カノネロ
……ウルラ・プリット・ショタールンド
撮影……ジョン・オルコット
音楽編曲&指揮……レナード・ローゼンマン

❖最高の映画! 最高の監督!❖

——ナショナル・ボード・オブ・レビュー——

全米マスコミ界が
驚愕の大絶賛!

❖胸の痛くなるような美しさ!
実に純粋な映画である

——ニューヨーク・ポスト

❖これは素晴らしい夢だ! 見て
いるうちに、いつまでもその
夢が終らないことを願わずに
はいられない!

——コスモポリタン

❖才気に満ち、
ユニークで、
エレガント
な映画!

❖華麗な画面
や、知的な
着想手法が
傑出! これ
ほど迫力の
ある映画は
かつてない

——ニューヨーク・タイムズ

❖映画芸術の美しさの極致!

——サタデー・レビュー

❖心を奪い、圧倒する第1級の
芸術作品!

——タイム・マガジン

❖雄大なエンターテイメント!
心をとらえて離さないスリル
がある。多くの監督が一生か
けても成し得なかつた魅力を
見事に創造——シンジケートッド
——コラムニスト



7月3日(土) 世紀の
ロードショウ

●国電有楽町・地下鉄銀座駅下車・朝日新聞社ウラ

丸の内 ピカデリー (201) 2881

*お得な前売り鑑賞券
¥1000(一般1300円の処)
劇場窓口にて絶賛発売中

❖グループ鑑賞のお申込みは各劇場又は松竹レジャー・エージェンシー (541)8143まで ■上映時間 連日 11:20 2:55 6:30